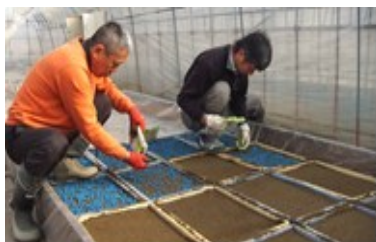

平成 26 年

2 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～



岐阜県農政部農業経営課

活力ある新産地づくり

農業経営課 ■ ブロッコリー プロコリーのプロジェクト活動検討会議の開催

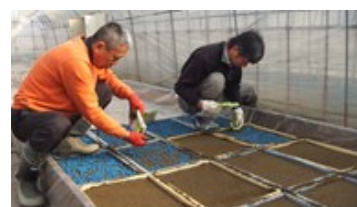
2月28日に、県下でブロッコリーの産地づくりを進めるため、関係普及指導員、試験研究・行政の担当者及びJA全農岐阜担当者等を招集し検討会議を開催した。25年度産ブロッコリーの栽培指導や販売経過を省みながら、定植時期や施肥改善による効果等を確認し、年明け出荷における品質や出荷量確保の問題などの整理を中心に検討を進めた。

次年度以降も新たな事業「新産地づくり地域活性化支援事業」でブロッコリー産地づくりに取り組んでいくため、農業革新支援専門員の活動（案）を示し、県全域を対象とした栽培技術研修会の開催や先進地事例の収集・活用など取組に向け協議した。

売れる農畜産物づくり

岐阜農林 ■ えだまめ 平成26年産の播種開始

26年産の播種が1月25日から始まった。農業普及課では、出荷前半の販売を強化する目的で、これまでより5日早い播種を品種選定や低温時の育苗管理等を通じて支援している。今後は、基本管理を徹底しJAぎふえだまめ部会が掲げる1100tの出荷を目指す。各地で実施している栽培研修会においては、出荷量増加に向けた意識啓発を、岐阜えだまめの現状と課題を踏まえて情報提供した。



【播種作業】

郡上農林 ■ にんじん 「ひるがの高原春まちにんじん」ブランドの向上

郡上市高鷲町のにんじん（ひるがの高原春まちにんじん）の収穫出荷が、2月中旬から本格的に始まった。播種時期～生育初期（8月上旬頃）の高温干ばつの影響もあり、一部発芽不良や肥大不足などが見られたが、冬の積雪量は確保できたため、「春まち」としての品質は概ね良好なものとなっている。

農業普及課では栽培への支援を行うとともに、PR支援にも重点を置いている。TV等への取材呼びかけを行ったところ、様々な場面で「春まち」がPRされるようになり、ブランドとしての認知度は高まりつつある。

今後も「ひるがの高原春まち」ブランドを最大限活かした有利販売を行うための方策について、生産者組織と協議を進める予定である。



【にんじん掘り起こし作業の様子】

農業経営課 ■ 新規需要米 稲WCS専用品種「たちすずか」の普及推進

耐倒伏性に優れた稲WCS専用品種「たちすずか」について、今年度、県内2カ所において栽培実証を行った。

2月14日、（一社）岐阜県畜産協会主催で開催された自給飼料共励会講演会において、県内畜産農家及び耕種農家に対し、今年度実施した栽培実証の結果をふまえ、「たちすずか」の生育状況、収量性、稲WCSの品質、嗜好性等について情報提供を行い、たちすずかの普及推進を行った。

講演会には、約60名の農家を含む関係者が出席し、たちすずかを乳牛へ給与する場合の影響やサイレージ調整する収穫適期



【自給飼料講演会の様子】

など、多くの質問が出され、この新しい品種に対する関心の高さが伺えた。

次年度に向けては、畜産研究所において、乳牛における消化性を試験することとなっており、生産から利用までの体制構築を目指す。

多様な担い手の育成・確保

揖斐農林 ■ 水田農業経営研修会 水田農業に関する知識、施策、動向について研修

農業普及課は2月19日、揖斐地域の土地利用型農業経営体及び町・農協等の関係機関を対象として、水田農業の確立と推進をはかることを目的として、水田農業経営研修会を開催した。

当日は約120人が出席し、農研機構中央農業総合研究センター研究員から「麦作における難防除雑草とその対策」として、麦作ほ場において問題となっているイネ科及び広葉雑草の生態、対策のポイント、除草剤の効果的な使用時期・方法などについて講義を受けた。次に、東海農政局から「新たな農業政策、その内容と今後の対応」として、農地中間管理機構の創設を始めとする4つの改革、さらに全農岐阜県本部から、飼料用米等水田活用米穀及び業務加工用野菜の取組みについての説明を聞いた。

出席者にとっては、タイムリーで関心の高い内容・話題であり、熱心に聞き入るとともに質問も活発に出された。



【写真左：麦類の難防除雑草対策、写真中：東海農政局から施策説明、写真右：需要拡大傾向にある業務加工用野菜の説明】

西濃農林 ■ 小麦 全国麦作共励会で日本農業新聞会長賞を受賞！

平成25年度（第40回）全国麦作共励会（集団の部）において、海津市の長久保営農組合が「日本農業新聞会長賞」を受賞し、2月19日に東京都で表彰式が行われた。

当組合は、暗渠排水整備に加え、明渠や弾丸暗渠の設置を行い、排水対策を徹底するとともに、土づくり、適期播種・追肥、防除徹底などの基本技術励行、計画的な水稻・小麦・大豆の2年3作ブロックローテーションの実施、品目毎の団地化による大型機械の効率的利用を行っており、平成25年産小麦では、単収501kg/10a、労働時間3.1時間/10aを実現している。

農業普及課では、JAにしみのと協力して、当組合に対する継続的な小麦栽培支援を行ってきており、今後とも地域の小麦栽培の模範としての役割が期待されている。



【表彰に臨む組合代表】

下呂農林 ■ 若手農業者 下呂市若手農業者ネットワーク設立

昨年8月30日に開催した「農業後継者交流会」で提言された「若手農業者ネットワーク」が、加入希望者の確認、連絡体制等の準備が整い、2月25日に正式に設立された。

設立の宣言は、下呂地区指導農業士会、青年農業士会、若手農業者ネットワークの合同交流会の場において、ネットワーク世話人の中島悠青年農業士会長が行った。

当日は、ネットワークの連絡手段として選択したLINEの研修会も開催し、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービ



【ネットワーク世話人による設立宣言】

ス) のリスク管理や農業経営への活用方法を学んだ。

農業普及課は交流会からネットワーク立ち上げまで全体の支援を行っており、今後も活動への支援を行っていく。

飛騨農林 ■ 担い手 東海ブロック農村青少年会議で優秀賞

2月6日、名古屋市において25年度東海ブロック農村青少年会議が開催された。この大会は、東海3県の4Hクラブ員が一堂に会し、組織活動を通じて得た知識や技術の成果を相互に交換し、自信と希望を持って農業に取り組む意欲を高めることを目的とし毎年開催されている。

高山4Hクラブ員の川尻達也さんは、岐阜県代表として大会に参加し意見発表部門で優秀賞を受賞、3月に東京で行われる全国青年農業者会議へ東海ブロック代表として参加することとなった。

農業普及課では、全国大会での入賞に向け、内容への助言や発表練習などの支援を引き続き行う予定である。



【中央が受賞者の川尻さん】

魅力ある農村づくり

中濃農林 ■ 普及活動成果発表会 「ひらく農業・中濃」を開催

中濃農林事務所の主催で、「地域を支える多様な担い手」をテーマに、「ひらく農業・中濃」を開催した。100名以上の出席者が、若い花き生産者の「就農から現在に至るまでの体験談と今後の展望」、農業普及課からは「夏秋ナスの産地振興について」の発表、兵庫県加古川農業改良普及センターの森本秀樹氏からは「集落営農の考え方と進め方」と題した講演を聴いた。特に森本氏からは、兵庫県内での集落営農立ち上げ事例、設立のポイント等についてわかりやすく講演いただいた。管内で集落営農に取り組んでいる方から質問が相次ぎ、今後集落営農化に向けた話し合いが、盛んになることを期待させる雰囲気の中で閉会とすることができた



【若手生産者の事例発表】



【集落営農についての講演】

可茂農林 ■ 「可茂農業をみんなで考える会」を開催

2月14日に、可茂総合庁舎で農業者団体、関係機関等の約160名の参加を得て、「可茂農業をみんなで考える会」を開催した。

農業普及課からは、活動事例報告として、「露地野菜の新規栽培者の確保の取り組み」と題して、夏秋なす及びさといもの新規栽培者確保のため、JAめぐみのと連携して実施した栽培技術研修等の取り組み成果について報告した。

また、今年度6次産業化総合化事業計画の認定を受けた(有)春見ライス代表取締役から、生産した米を活用した新商品開発や販売活動等、6次産業化の取り組みについて事例発表を行うとともに取組を紹介するパネル展示や開発された新商品の展示も行った。

また、岐阜県6次産業化プランナーの森竜也氏から「地域食材を活かした商品づくり」と題して講演され、6次産業化の成功事例紹介や取組のポイントについて等、参集者の意識も向上した。



【農業普及課の発表】

東濃農林 ■ 普及活動成果発表会を開催

農業普及課は2月25日、土岐地区農業普及事業推進協議会と共催で普及活動成果発表会を開催した。昨年を上回る125名が参加者し、普及活動の成果や課題について共有・検討した。

農業普及課からは、「土岐市鶴里町における集落営農組織の育成」に関わった4年間の活動経過を報告するとともに、農産物直売所で課題となる野菜の周年栽培化に向けた簡易ハウスの取組について紹介した。

また、昨年度トマトポット耕で新規就農した認定就農者、岩原氏及び今年度オープンした多治見市の農産物直売所「駅北ファーム」の出荷者協議会長、右高氏が、これまでの経緯や今後の夢や振興方向等について発表した。

さらに、秩父お菓子な郷推進協議会専務理事の中村雅夫氏を招いての講演も行った。講演内容は、カエデ・サツマイモ等地域の農林産物に着目し、連携による、美味しい商品の開発、地産地消が地域振興につながった話であった。

この他、休憩時間を活用しての、6次産業化開発商品の展示・試食や、鳥獣害対策資材の展示なども行い、盛況な発表会となった。今後もこうした機会を地域農業の積極的な仕掛けを行う場として最大限活用していきたい。



【活動発表を行う普及指導員】

恵那農林 ■ 農業普及課活動発表会と中津川支所研究成果検討会を合同開催！

農業普及課では2月13日に恵那市文化センターで普及活動発表会を開催した。今回も昨年に引き続き、中山間農業研究所中津川支所と合同開催とし、農業者、行政関係者、JA職員など170名が参集した。

農業普及課からは「恵那地域における飼料用米の取り組み」などの普及活動の発表を行い、中津川支所からは、「なす台木を利用したトマトのセル苗直接定植技術の開発」などの研究成果の報告が行われた。

現地の農業者へ直接支援を行う農業普及課と、産地振興に向けた新技術開発に取り組む中津川支所の合同発表会は、農業生産において課題が多い中山間地域では、試験研究と普及指導の両機関が連携し、効率的かつ効果的な現地支援の発表として、更なる農業振興が期待できる内容となった。



【合同発表会の様子】